

「演しもの」はきまりましたか、このニュースが、着くころは、「演出」についてのカンカンガクガクの論議もいちだんらくして、もはや「舞台ゲイコ」まで進んでいることでしょうか。勿論「主役」はあなたですね。演劇では、参加するすべての人が「主役」

ですから……。

大道具、小道具、照明、音楽、音響、メーキャップ、演出、演技etc……と、やることが沢山ありますね。暑い夏にみんなで流した汗が、秋には立派に実を結びます。期待しています。



たのしい舞台照明

演出と照明（その2）

演出意図による照明

牛丸 光生

1. 写実的照明

劇では、写実的照明と、反写実的照明の二つに大別されます。

写実的照明は、舞台に現実を写すという考えから、創るものです。

これは舞台に真実性をもたせると云うことが基本となっています。初期には、本物の家具や本物の置道具、本物の肉や、動物、そして、水の出る噴水など、すべて本物で作ろうとしました。照明も、電灯だけでとか、ランプだけでという時もありました。

やがて、舞台で日常生活に使われている家具やガラス戸の本物や水の出る洗面所で、演技を日常生活のままに表現するのは、あやまりで、自然をそのまま舞台に再現するのは無理で、不可能と判りました。

その後、写実的な舞台は自然の模倣でなく、自然を舞台に示現することが写実であると変わってきました。

実物の小道具、衣裳、装置だけで自然を表現することは不可能ですし、電灯だけやシャンデリヤの実物だけで、劇表現の写実にならないと判ったからです。

写実とは何か、ということは大変難しいことで、舞台に現実を写すという思想から、いろいろな運動や創造活動が生れてきました。

「たのしい舞台照明」で、少したのしくないようなテーマなのですが、写実的照明は劇の照明の基本なので、今回は、まず、写実照明のイロハ、つまり初歩から取り組んでみます。

A. 客席は暗くすること。

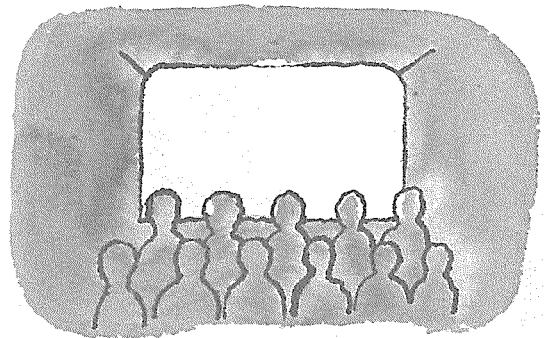
写実的な照明でなくても、舞台が客席より明るくするのは当然ですが、ここでは客席は危険の限度迄

の暗さが必要です。

劇場、ホールなどの完備した客席は、暗いといっても、足元灯、禁煙灯、非常口灯、残置灯などがあります。

写実的照明の理想は客席の暗黒にあります。ですから完備した劇場のプロセニウム側の禁煙灯など、明るすぎて、暗転の場合や、照明の微妙な暗さのときに、眩しすぎる場合もあるのです。

なぜ、写実的照明に客席は暗くすることが必要なのか、これは、舞台に自然を示現するための装置、衣裳、小道具などの補助的要素と、照明の微妙な光線の変化や、劇の内容や芸術上の劇展開にとって、客席が明るいことが、非常に逆効果をもたらすから



です。

リアルな劇のなかで、客席の観客の顔が、はっきりとみえたり、客席のシャンデリヤや、蛍光灯が、きらめいていたり、客席の天井や壁の装飾が、舞台の明るさと同じだったら、劇の効果が、無残にこわれてしまいます。

リアルな劇は、リアルな照明を必要とします。写実劇の開幕前に、客席内を必要以上に明るくしているのをよくみかけます。

これは、プロでも無神経な人がいるのですが、舞台が、客席より暗い状態で開幕するときに、観客は

明暗にとまどい、舞台をより暗く感じるのです。リアルな劇の客席には必要以上の明るさはさけて下さい。

照明をつくるのは、単に照明器具を点灯することではありません。観客の心理まで、考えることが必要です。写実的照明を作る人も操作する人も、客席の暗さをよく考えて下さい。劇場、ホールなどの完備した処では、開演中のドアの出入りには充分注意すること。講堂、体育館などでは暗幕は、自然光線を充分さえぎる布地のもので、少しの外光の洩れないようにすることが肝要です。

B. 開演中は舞台以外の処は暗くする。

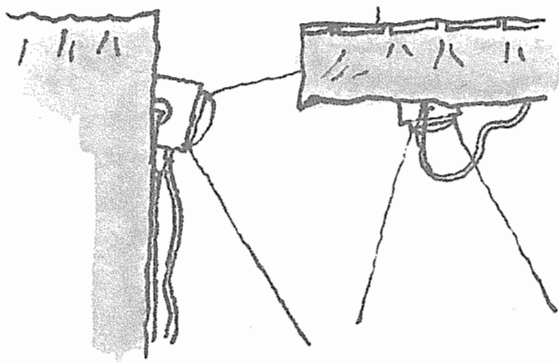
Aの客席を暗くすることに、更に開演中にスポットライト室、調光室、舞台袖などが、不用意に明るくて、著しく観賞を損うことがあります。これは写実的照明でなくても、照明担当者の留意することです。また、プロセニウムから、はみだしたスポットライトの投光や、雲や、雪が、プロセニウムの上下、左右に流れでることも、注意して下さい。

特にステージスポットライトや、フロントサイド、スポットが、舞台以外の処に投光されたままであるのは、写実的照明には全く必要のないことなのです。

C. 照明器具は露出しないこと。

写実的な照明では、照明器具（スポットライト、ボーダーライト）等を露出して、観客にみせないことです。

必要があつて、フットスポットを置く場合でも、黒布や小道具で隠して、器具本体をさらけだしてはいけません。舞台装置の樹々の間にスポットライトがみえたり、遠見の前にストリップライトが露出しているのは、写実的な照明効果を損うばかりか、観



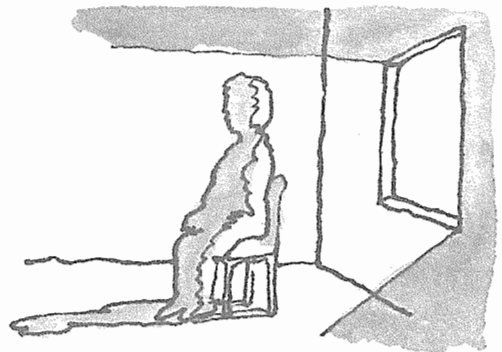
客に異和感を与えます。

いろいろ火の電球が露出していたり、たき火や、だんろの火の電球が、観客席から、あきらかに見えるのは、写実的照明としては失格です。この場合は、小さなそだや、綿火（綿でくるんだかくし）などで、電球をかくして下さい。

舞台前に、幻灯器具や、スポットをならべて、照明器具の展示会のように露出しているのは写実的な照明効果とは違うのです。

D. 自然光線は一方のみであること。

太陽、月などの自然光線は、写実的照明では、一方から投光します。同一場面のセットで、上手から朝陽、続いて暗転で、同じく上手から夕日などということは、写実劇では絶対にあり得ぬことなのです。上手から朝陽なら、夕日は下手方向が基本です。



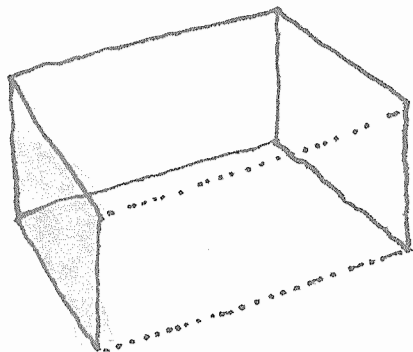
次に、上手から太陽光線が投光され、同じ明るさの太陽光線が下手から投光されるなどということも、リアルな照明効果にはなりません。

もとより、自然をそのまま舞台に再現することは出来ないのですが、自然光線の太陽や月が多方向から投光されたら、困惑するのは、演技者や観客です。季節や方角や時間は、リアルな照明には必要なのです。

E. 舞台は四方の壁の一方をきりとしたもの

リアルな劇の装置は、四方の壁の一方をきりとした形で創られます。室内、室外とも、これは写実劇の基本で、この基本から単純化写実などの技法があります。

いずれにしても、三方の空間を、ありのままに写



し出すことが目的ですから、照明は、この基本から作ることを考えて下さい。

例えば、上手だけに窓がある場合、窓からみえる空を想定する必要があります。また窓の外は、自然光線が投光されているのですから、角度によって、朝陽、夕陽、などを、明確にイメージとして持つことが重要です。

上手だけの窓となると、晴天の日は窓の外は明るく、また窓附近は、他の室内のどの部分よりも明るいことが条件です。

一つの窓でも、写実的照明には、欠くことの出来ない重要性があるのです。

F. 光源の近い処は明るく、反対に光源の遠い処は暗い。

当然のことなのですが、写実的照明の冒しやすすミスは、実にここにあります。

まず、夜の景で、蛍光灯の下でも、電灯の下でも、明るい処は直下です。処が、舞台では、灯具のために直下が暗いことがあります。照明器具（サスペンションスポット）を灯具の真上に吊ると、真下がかげで暗くなります。判りきったことですが、こうしたあやまちが、写実的照明では、ありがちなことなのです。

次に劇の展開で、灯具（電灯、ブラケット）灯入（いろり火、ランプ等）より離れて、演技する場合に、灯具の明るさより、はるかに明るく人物をみせることがあります。これでは何のために、灯具をおいたのか、理解に苦しみます。あたりまえのことが真実であることを、もう一度考えてみましょう。

G. 自然の光線がすべて基調であること。

自然は写実的照明の良い教師です。

暁の初光、美しい星、強烈な太陽、蒼ざめた月、動くともなく流れる雲、雪の夕焼け空、海面に沈む太陽、田園に乱舞する稲妻、竹林の散光、等々、自然の光の美しさ、激しさを、いくらならべても尽きることはありません。

写実的照明は、この自然の光が、すべての基調となります。夜明けは、微妙な光の変化で刻々と変わりますが、夜明けに緑や黄の原色を使うことは、まずありません。

沈む太陽が青かったり、月が赤いという照明は、写実的な照明ではありません。

写実的照明は、自然の光のあらゆる情景をイメージとして持ち、的確に表現しなければなりません。それには、まず自然の観察を、それを、絵画的に、しかも科学的にとらえる必要があります。

例えば、雪のシーンでも、雪のさまざまな降りかたを研究します。垂直に降る雪、横なぐりに降る雪、下から舞いあがる雪、日射しがあっても降る雪、等々、雪が降るのも、その劇の展開や、情景でさまざまなのです。

雪を、エフェクトマシンで使用する場合も、雪の大きさ、スピード、流れる角度など、を考慮しなければなりません。

写実的照明では安易に、雪や雲のマシンを使うことは、避けて下さい。写実的な劇では、照明器具による雪よりも、かえって「本雪」といって、紙や発泡スチロールの雪が、舞台に真実性をもたらすものなのです。

エフェクトマシンの雪を使用する場合、注意することは、「種板」です。これは最近、アルミ箔のようなもので、機械的に生産されていますが、少しのきざでも、舞台では大きく映じます。「種板」の取扱いは慎重にすることと、細い神経で取付けることです。

写実的照明では、自然の光を忠実に舞台に示現することを心がけて下さい。

例えば、窓のある室内で、夕暮れの情景では、時間は劇の展開で、陽が沈む場合、窓の外は室内より明るいことが基本です。陽が沈む前に、室内に電灯やスタンドが点灯する時は、室内は明るく、外は暗くする技法が必要です。

月光は青いというのが自然のありのままの色彩ですが、心理的には、赤い月も緑の月もあります。しかし写実的照明では、月は青いという原則を守るこ

とです。

音楽や舞踊で、赤色の月、緑色の月、黄色の月を表現することもあります。照明は、すべて美的な要素をもっているのです。表現技法として、このような色彩の月を映像として、効果的にみせる場合もありますが、写實的照明では、月が青いというところからその青さが、劇の補助的要素として、淡い場合と濃い場合とに作ります。

H. 人工光源は実物より暗いこと。

舞台上で使用する電灯、フロアスタンド、シャンデリア、ブラケット、ペンダント、蛍光灯などの灯具を、実生活で使用するのと同じ明るさ（W数）にすると、劇効果としては、観客に眩しさを与えるだけで、著しく観覧を損みます。

実生活で使用するフロアスタンドが100Wでも、舞台では、灯具そのものの明るさが、演技者を見えやすくすることが必要です。特に裸灯具を使用する場合、電球に、うすのりをつけたり、墨で汚して、観客に眩しさを感じさせないことと、5割近く暗くするように考えて下さい。

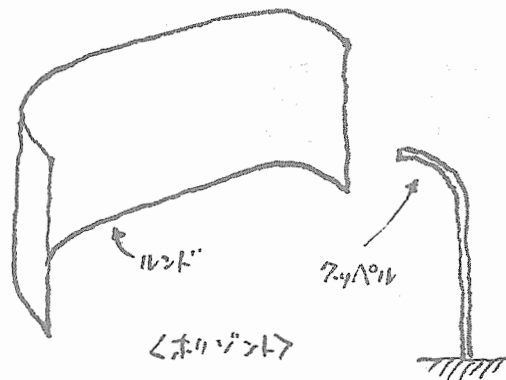
舞台の真実は虚構の真実にあるといわれています。実生活そのままの灯具を使用しても、劇では、かえって真実性が薄れてしまうのです。舞台空間は、決して実生活の空間ではなく、照明灯具も実物そのものの展示ではありません。

I. ホリゾントは非常に重要であること。

ホリゾントは舞台一番奥の床面より直立した灰白色のしっくい壁か、厚い布で作られています。1869年、ドイツのブランドの発明によるものです。1903年にホーチュニーの案出したクッペルホリゾントの形態と、ルンドホリゾントの形態の二種類があります。

良く設計されたホリゾントは、光の無限の可能性を与えます。一枚の張物、一本の立木一つの小道具、一枚の背景等が光の配布で、写實的な劇には欠くことの出来ないものです。

ホリゾントカーテンの場合、布地は、照明光のギャッキを防ぐため、厚地であることが必要です。薄い布地では、光の角度で透けてしまうことがあります。また、布地は反射効果の高い粗いものが良い。細かい布地は、光を吸収するので、良好な効果は得られません。布地は一見、白のようにみえますが、こ



れも灰色、灰白色、灰青白色とあります。ホリゾントカーテンは、専門の照明設計者とよく相談して、適応した布地と色彩を選定する必要があります。

さて、ホリゾントを照射する照明器具が、ホリゾントライトです。ホリゾントライトは上部より照射するアッパーホリゾントライトと、下部から照射するローアホリゾントライトの二種類があります。

アッパーホリゾントは、広大な大空を表現するので、十分な明るさが必要で、ホリゾントカーテンとの距離、すなわちアッパーホリゾントの位置は、2m以上必要です。

晴天、曇空、雨空、雪空、さらに、朝、昼夕、夜の刻々の変化を微妙に表現するのがホリゾントライトの特性です。写實的照明では、ホリゾントは非常に重要です。

J. 補助的要素として存在する。

リアルな照明は、説明的な作りかたですから、観客に自由な現像を持たせるという事では、弱点でもあります。これは写實的照明の避けられないことで、同時に、照明の自己主張をしてはならないともいえます。

照明の効果で、観客を魅了するのは、ゆき届いた照明設計と操作です。プランがどのように細部まで作られても、操作する照明家が無神経であると逆効果となります。

リアルな照明は、あくまで、劇の補助的要素として、目立たぬ光の設計や配置が望ましいことなのです。

写実に忠実なあまり、演技者の顔がみえなかったり、暗すぎたりすることも、よくありません。観客に生理的な不快感を与えることは、写實的照明のゆきすぎなのです。

歌謡ショーの照明

沢田研二ショー 〈ファンタスティック・サーカス〉

前島 良彦 東京舞台照明

舞台照明のことについて、なにか話をせよとのことですが、私はもともと“書かれたもの”を、あまり信用しないほうですし、また、順序だてて“ものを言う”ことも得意ではありません。ですからこの課題にはとても困っています。したがって普段、照明にたずさわっている者が“思っていること、感じていることを、とりとめもなくお話しする”ということのでかんばんしてください。

*

私のやっている舞台照明は、あまり一般的ではないかも知れません。歌謡ショーといってもロック系のショーですから、いつでも“創意と工夫”に悩んでいます。

私の場合は、劇場備付の機器はあまり使いません。常に、ショーの上演計画があると、プロダクション、タレント、演出者と打合せて“特別の照明セット”を作ります。ですから小屋の設備は、補助用に使うほかめったに使用しないのです。ぜいたくと思われるかも知れませんが、ロックショーの場合は、野外公演が殆んどですから、いつでも架設舞台で照明をやらされるのです。

野外でやるときは、おゝむね、バンドを囲い込むようにライトを配置します。ですから劇場公演の場合も、ふつうの芝居などとは異った器具配列に、当然なってきます。それゆえいつでも“特別仕込み”ということになるのです。

芝居の場合、全くといっていい程やらないことですが、20kWのスポットライトを舞台奥から客席正面へ向って投光するというような器具設置をすることもあります。

余談ですが、“ハワイ公演”のとき、こんなことがありました。ハワイのたしかH I C劇場だったと思いますが、“沢田研二ショー”のとき、やはりスポットを舞台奥から客席に向って使おうとしたところ、むこうの興業を請負っている老興業師にきつく反対されたのです。

理由をきゝますと「お客様が、まぶしい」「常識的でない」ということでした。日本の場合も同じですが、興業師の感覚といえますか、お年寄の場合は、「常識的」ということに、ひどく固執するようです。

常識的ということは、それなりに大切なことであることはみとめます。しかし他方、別の見方をすれば、常識に固執しすぎることはマンネリズムに陥る危険もあるということです。

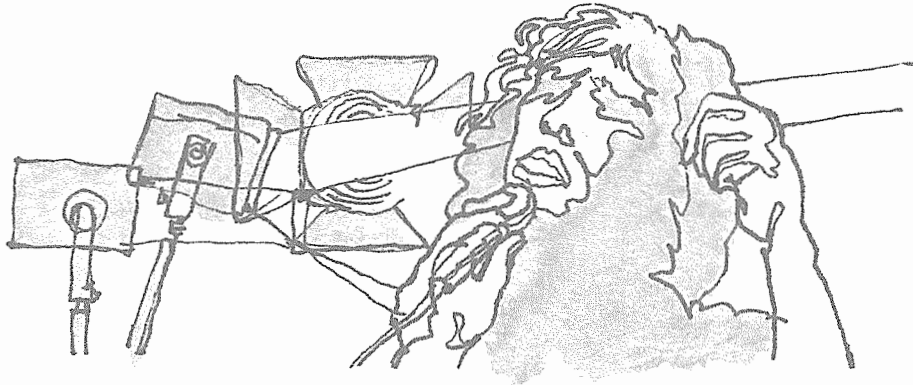
ショーを観にくるお客さんは、なにか新しいことを求めてやってきます。特に私達のやっているロック調のショーでは、その傾向が強いと思います。照明を担当する私としては、自惚れているようですが、「ロック」のショーは「音を明りでみせるショー」だと考えています。ですから「常識的」ということで規制されることは、とても困るのです。

余談が思わぬ方へ走ってしまいました。

ともあれ、私は、いつも新しいライティングのトライアルをしているつもりです。勿論現在やっている、ロックのショーの照明という現実をふまえてのことですが……………。

今回のショーでも直径1.5mのミラーボールを作ってもらいました。たゞし、おことわりしておきますが、私は本来“効果器”いらないと考えているのです。

よく、効果器をチャカチャカ使って、目まぐるし



く色を動かし、それで照明である、といったようなショーをみかけますが、あゝゆうのはとても好きではありません。

効果器はそれなりに使う条件が厳しくないといけません。心要性・効果性をぎりぎりのところまで追求して、音をみせるためにどうしても必要ならば使います。

ただし同じものを何度もくりかえして使うということはありません。

それともうひとつ、照明をするときに気をつけなければいけないことは、明かり屋が一人よがり凝りすぎると、大変危険だということです。凝りすぎた照明のプランニングは大体失敗すると考えてよいでしょう。特に暗い明かりで何か表現しようとする、こちらの意図と観客の反応がまったく逆の結果になることが経験からいって多かったと覚えています。

ロックの照明の“創意と工夫”で、今とても欲しいと思っているのですが、手に入らないものがあります。それは、パツ、パツ、パツと音楽のスタッカートに合せて、あおることのできる“調光器”です。今の調光器は、それなりに大変良いのですが、ロックのテンポに合せてあおらなければならない場合、全くテンポが合わずに困ることがしばしばです。

結局、オペレーターの腕をたよりに無理をするということになります。もっともメーカーさんにいわせれば、技術的には出来ないことはないのですが、いかんせん値段が高すぎて買いきれないのです。どなたか安く作れる方法を教えてください。

*

照明で食べさせてもらっている一人として考えていることですが、“明かり屋”という言葉について近ごろ思うことがあります。“明かり屋”という呼び名は“裏方”という意味に通じると思います。裏方＝職人というイメージづけは少々独断的ですが、私は、照明家は、その仕事が技術を伴う以上、職人的であることは当然ですが、職人に徹してしまうことは、問題があると思っています。

照明の仕事は、感覚プラス技術であるからです。感覚的にすぐれていなければ、技術的にいかにすぐれていても照明家として良い仕事はできません。そのためにはいつでもフレッシュな感覚で若く居ることが絶対必要です。ですから服装なども流行の先端を追っかけるぐらいで良いと思います。

又、サングラスも照明家にとっては今や必需品だと思います。年配の方には叱られるかも知れませんが、500Wのスポットの時代と10kWのスポットの今日では、まったく条件が違います。明かり屋も“流行”という意味からだけでなく、健康の面から考えても、目の保護という点でサングラスはかけるべきだと思います。

*

私達は、日常、照明のプロとして生活しているのですが、特にこの世界で注意しなければならないことは、世界が狭くなりがちだということです。ダイナミックな思考法といえますか、明かり屋にはぜひ柔かい頭脳が必要だと思います。

いろいろとりとめもないことを書いて来ましたが、参考になったでしょうか、心配しながら筆をおきます。

学校のための 舞台照明設備の すすめ。

岩品 健介

社団法人日本照明家協会会員

日本劇場技術協会会員

株式会社 共立

前号では、少しでもより多くの学校で、舞台照明設備をもてる様に、祈るような気持で、お願い申上げて参りました。

それで、これからは、出来すぎた理想的な話はやめにして、身近な問題を、より具体的にとらえる実践的な方法で、学校演劇の為の舞台照明づくりを、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

去る、6月5日、都立上野高等学校の会場で、日本照明家協会による、東京都高等学校演劇研究会の、高校演劇の為の舞台照明実技講習会を実施して、大変な盛況のうちに、会を終えたことを、私共関係者は、会の運営に尽力された顧問の先生方に、厚く御礼申し上げます。それから、雨の中を、会場に来て、熱心に受講された、演劇部員の皆さんにも、心より有難うと申し上げます。

又、此の稿が、マルモライティングニュースに掲載される頃には、おそらく「第5回全国高等学校演劇研究大会・第22回全国高等学校演劇指導者講習会・全国高等学校演劇コンクール」が、青森県八戸市公会堂において、華々しく開催されることでしょう。

私も、皆さん方の永年の成果の程を、是非共観せて頂くつもりで、楽しみにして居りますが、それはそれ、めぐまれない設備環境の中で、地味な活動を続けている数多い学校の演劇部員の皆さんと共に、本当に素朴なところから、お手伝いをさせて頂く気持ちになりました。

(1) CEC型1kWスポット

2台だけの照明

これは、埼玉県浦和市の、ある中学校のお話です。「で、先生のところは、何をお演りになるのですか？」

「真夏の夜の夢を演ることにしました。」

「それは、又、大変ですネ」

「照明のことは然々判らないので……、使い方を教えて頂けるでしょうか？」

「私の納めた学校では、必ず、生徒に教えて参りました。勿論、よろこんで……」

此の学校は、本当に“真夏の夜の夢”を演る気であるのです。

おそらく、先生は、中学生向きにアレンジした上演用台本を用意されているのですが、卒直に云って、中学生の演劇では、上演時間は、せいぜい30分位が限度のように思うのです。

「先生、大変ですネ……」

そう云ってから、20数年前の記憶を辿っていました。

“真夏……”には、青春のホロニガイ浪漫があったからです。

私は、今、付焼刃のように、福田恒存訳の新潮文庫本“夏の夜の夢”を手にはしています。……五幕1場とエピローグ。

*

PRは程々にして、いよいよ本題の作業に移りましょう。

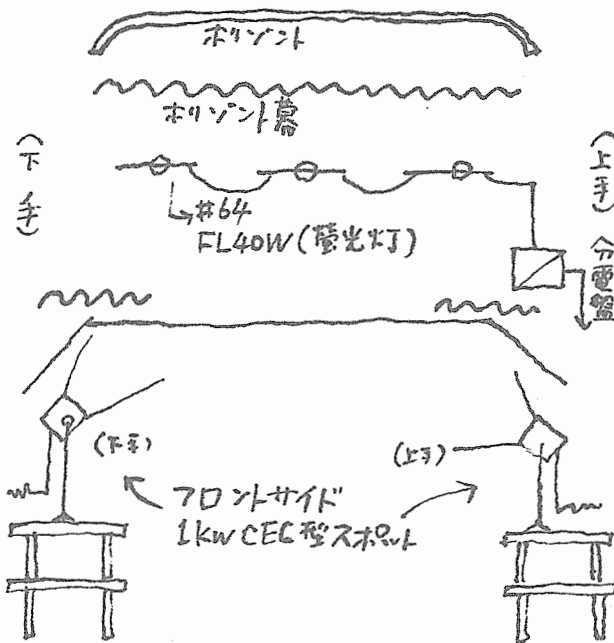
第1図の仕込図に示してあるように、スポット2台では、光量も足りないので、舞台天井の40W蛍光灯一列を利用することにしましょう。

先づ、皆さんは、照明プランナーの示した仕込図に従って、仕事を始めます。

天井のスノコに吊ってある蛍光灯に、プラスチック・カラーフィルター#64(一番薄いブルー)を、手ごろに切って、セロテープでとめて下さい。一管宛ていねいに#64を巻いてから、ケースに納めて、点灯してみてください。

舞台中の地明りとして、充分ではないにしても、サスペンションライトの地明りの代用になったでしょう。これで、舞台中の地明り#64が出来上ったのです。

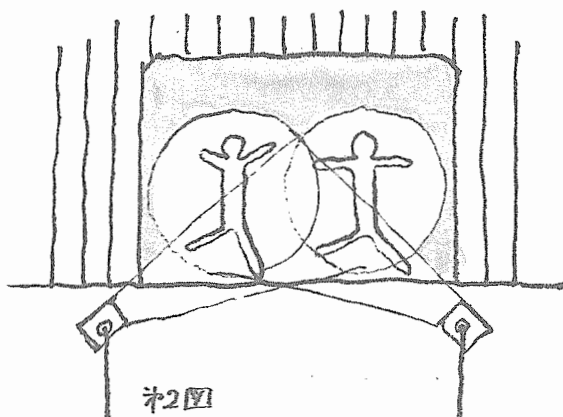
第1図



一方、別の組は、手分けして、フロント・サイド・スポットを、図の様に、(古い卓球台) 台の上ののせて、延長コード(キャプタイヤコード1kW用)につなぎ、両側の壁に埋め込んである二型コンセント(10A用)にさし込んで下さい。これで、フロント・サイド・スポットは点灯した筈です。

その場合、同一側の壁コンセントが平行型(二型)コンセントであれば、1kW以上の容量のスポットを使用すると、容量オーバーになりヒューズがトブことがあります。何故なら、同一側壁のコンセントへは、大概直列で配線されているからです。

又、体育館内二階通路両側にある柱の埋込みコンセントを利用する場合は、大抵T型コンセントで、これは20A迄使用出来るので、台は不要になります。しかし、投光角度とステージ迄の距離の点で、前者より遠くなり、斜めになる嫌いがある、当然、舞



台上の演技者の顔は暗くなります。即ち一長一短はありますが、照明プランナーは、とまかく、舞台への距離の近さと投光角度の点で、効率のよい前者を選んだのでしょう。

2台のスポットの設置がすんだら、灯を入れて、今度は当りをつけましょう。

第2図のように、中央をだぶらせながら、人物に充分光が当るように、左、右に振り分けます。

スポットのフォーカスを上げすぎると、不必要な所迄照明が流れて当り、面白くありません。又、小さすぎても、人物全体に光が当たらないで、これも失敗です。

フロント・サイド・スポット(前明り)は、舞台の額縁からはみ出さないように、まんべんなく、むらのないように配光するのです。

アッパー・ホリゾン・ライトも、ロー・ホリゾン・ライトもない現状では、2台のスポットがそのままホリゾン幕にも当り、ホリゾンライトの効用も兼ねているのです。

勿論、やむを得ない影が、ホリゾン幕に出ますが、エンジ幕か、グリーン幕か、黒幕か、又は、紫色の幕、黄色の幕なので、あまり気にならないのです。

照明の第一義は、舞台の演技が観客に見えることです。美しく見せることです。

その意味で、多少の影は出ても、見えることの方を優先したのです。

仕込みと配光の作業が終ると、プランナーとの打合せです。

配電盤調光操作の仕事がないので、主として、フロント・サイド・スポットの色換えのタイミング、舞台用語で云えば、キッカケをつかむ為の、プランナーとオペレーターの技術的打合せを充分に行うのです。

例えば、考え方として、舞台設備が充分に整っていないという理由から、演出者は、多分に簡略化した古典的様式の舞台効果も狙った演出手法をとると仮定しましょう。

衣裳も、お面をつける位ですませ、装置もボール紙を用いた切出し程度の簡単なものにし、適当に切り込んだ上演台本を用意します。当然、ホリゾンライトのない舞台なので、ホリゾン幕をそのまま背景幕として使います。

照明は殆んど変化の必要もないのです。

日本舞踊や歌舞伎の舞台にW明り(ナマ)あかりが多い様に、今度のお芝居は、全幕通してW明りで決めるのです。

各景は、プラカードで示し、自然主義的技法は避けるのです。

しかし、再び…どの様な場合にも、舞台は見えなければなりません。しかも、美しく観せなければなりません。とすれば、どのようにしたら、少しでも観客の眼に美的に映るのでしょう。

それは、 Horizont幕の色に調子トーンを合せるのです。

第1表

Horizont幕	F (下手)	F (上手)
エンジ色幕	#19(P)	#W
グリーン幕	#55(G)	#W
バイオレット幕	#W	#W
イエロー幕	#45(Y)	#W
黒幕	#W	#W

上の第1表のように、 Horizont幕の色に対して、同色系の淡い色を使うか、黒幕の場合のように、反対色を当てると、 Horizont幕の色が映えて見えるもので、黒幕とかバイオレットの幕のように、濃い目のものには、反対色がよいということもお判りになると思います。

これは一度験ためしてから決めて下さい。

それから、舞台転換の時の明り(あか)は、そのまゝ明転で通すものか、それとも、天井の蛍光灯の#64の地明りのみを残してみるのか、2台のスポットに#72(濃いブルー)を入れて、いわゆるブルー舞台にして転換をみせるのか、これも、演出上の流れを考えて処理するしかないでしょう。

即ち、裏方側の製作にかける神経を、演劇のより主体的な部門(演出・演技の面)にそそぐことが出来れば、これは、或る意味で、一つの高みからの見識とも云えるでしょう。

「語られる言葉の美」

「もの云う術」

これだけを抽出しても、国語教育の中で直接に生かされなければならない、学校演劇の永遠の課題ではないかとさえ思います。

次に、原作に忠実に、全幕を通して行われた場合の照明プランの操作表をお見せしましょう。

どんな簡単なものでも、照明プランとその操作表

を記録に残すことは必要です。

操作表は音楽で云う楽譜なのです。

仕込図があり、操作表があり、プラン表があれば、いつの世にも、その照明プランを再現することが出来ます。

勿論、芸術の一回性について論議しているのではありません。

絶対に同一のものが出来なくとも、その照明プランナーの意志を汲んだ、同質の舞台が再現出来る余地はあるのです。

即ち、もう少し重ねて云えば、もしも、完全な形で上演台本を残し、演出手帖の記録があり、舞台装置、小道具、衣裳、照明、音響効果の、それぞれのパートに亘る詳細なプランの記録が為され、舞台監督の付け帖があれば、かなりな年月に堪えて、当時のものを再現することが出来るでしょう。

その上、今日は、ビデオカセットの時代です。フィルムフィルムの寿命を考慮に入れなければ、これからは、舞台芸術作品のライブラリーとして、永久に保存されることになるのです。もう少し、悪戯っぽく云えば、もし、それらのものを、カプセルに容れて残せば、現代人の文化文明の一端を、いつか未来人によって垣間みることも出来るでしょう。

資料としては貴重なものでも、舞台芸術として風雪に堪える作品は、そうざらに出るものではありません。

別表の様に、照明プランの操作表が出来上りました。

これは机上のプランなので、此の表を元にして、実際に、照明り合せをし、更に、通し稽古にのぞむのです。その際の演出からのダメ出しや、装置家からの注文、やや、各パートのプランナーからの要望を配慮しながら、本番の照明を決めてゆくのです。

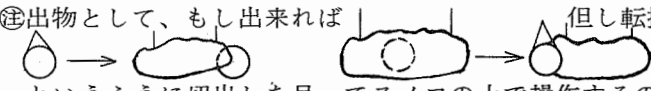
例えば、此のプラン表では、各場とのつなぎの部分(場面転換)の際の照明が抜けています。

これは、演出上の舞台の流れがわからないので、暗転にするのか、濃いブルーの舞台にしてつなぐものか、そのまゝ次の景の照明あかりにつないでみるのか、実際の照明り合せや、通し稽古をしてみなければ、はっきりと把握することが出来ないからです。

そうして、訂正され、手直しされて出来たものが、本当の照明プランであり、操作プランであると云えるでしょう。

そして、此の、スポット2台のみで出来る照明プ

Q	場 面 の 名 称	(下手) 下	(上手) 下	出 物	天井蛍光灯 地 明 り
1	Act-1 S-1 シーシアスの宮殿(大広間) (ヒル)	# 45	# 45 or W		# 64
2	Act-1 S-2 ピーター・クインスの家 (ヒル)	〃	〃		〃
3	Act-2 S-1 アセンズ公の森 (月夜)	# 88	# 64		〃
4	Act-2 S-2 森の中の別な場所 (中央に柵の木)	〃	〃		〃
5	Act-3 S-1 (前場と同じ) 職人達の出で (月夜)	〃	〃	カンテラ 1 個	〃
6	Act-3 S-2 森の中(苔むした斜面) (オーベロン登場で) (月夜)	〃	〃	⑩切出しの月 (灯入れがあればよい)	〃
7	〃 途中で霧が垂れこめる (オーベロン退場する) (暗闇)	# 87	# 65	雲の切出し ドライアイスの霧	〃
8	〃 暗の中の決斗から 霧はれる (疲れ果て眠りに入って) (月夜)	# 88	# 64	⑩の切出し	〃
9	Act-4 S-1 前場と同じ (タイタニアとボトムの出で) (月夜)	〃	〃	カンテラ 1 個	〃
10	〃 パックへ…ひばりの声が朝の歌を。 (夜明け→朝) から	〃	W	(効果ひばりの啼声)	〃
11	Act-4 S-2 ピーター・クインスの家(部屋の中) (夜)	# 35	# 35		〃
12	Act-5 S-1 シーシアスの宮殿(大広間) (月夜)	〃	〃	暖炉の火入 灯火、炬火の灯入	〃
13	〃 シーシアスのへ深夜の鐘が12時を打ち 終わった!……同退去して	# 88	# 64	灯火、炬火 ダンロの 暖炉を消す 残火のみ	〃
14	〃 オーベロン・タイターニアと妖精達 ローソクを持って出て来て→ダンロに火をつけて	# 35	# 35	暖炉の火がつく	〃
15	〃 (妖精達退場してパックのみになり) エピローグ	# 88	# 64	ダンロの灯は残す	〃

⑩出物として、もし出来れば、 但し転換照明は稽古で決める

というふうに切出しを吊ってスノコの上で操作するのもよい。
月の裏に電球を仕込んで光る月にすると霧が出て闇夜になった
時が面白いと思う。

ランでは、配電盤や調光器の設備がないので、集中方式にならず、各個のオペレーターが、個々に電源を入れたり切ったりしなければならず、各景毎の暗転つなぎは面倒なことになり、失敗のもとにもなり易いので、成可くならば、明転の方が良いでしょう。唯、灯入れの効果を生かす場面で、どの程度照度をおとせば効果が上るものか、実際にあたってみなければわからないのです。それも、調光することが出来ないのです。前明りを消すか、さもなければ、舞台中の地明り(蛍光灯)を消すか、或いは、両者を点けたままの方が、プランとして十分に効果的であるものか、机上のプランでは、細いニュアンス迄は、とても計り知れるものではないので、まして、始めて経験する会場の舞台ではとても見当がつかないものなのです。

もし、皆さんの演劇部で“真夏の夜の夢”を演るのでしたら、どうぞ、試しに、此のプランをお使い下さい。

但し、1kW CECのスポット2台しかないところの学校で……。

*

どうやら、与えられたスペースも、大幅に超過しました。

最終的には、照明は、直観の芸術です。

感じとる芸術です。熟練の芸術です。

それでは、皆様、いつかどこかで必ずお会致しましょう。

(1976. 6. 16)

★使ってみませんか★

マルモ・ディムパック T-6/T-15

太陽が西の山肩へ沈もうとしている夕ぐれどき、茜いろに染った空……。

だんだん暗くなって、今まで、まっかな色をしていた空が、うすいピンクの残照に変わり、次第に青く深い夜のとばりがあたりに満ちてくる……。

ディムパック1台あれば、学校演劇、アマチュア演劇でも、プロフェッショナルと同じような照明効果が、簡単につくりだせます。

夕ぐれから夜へ、夜明けから朝、そして真昼へという時間の経過。

晴れていた空が、にわかには厚い雲におぼわれて、と

いった天候の変化等の状況の移り変わり。

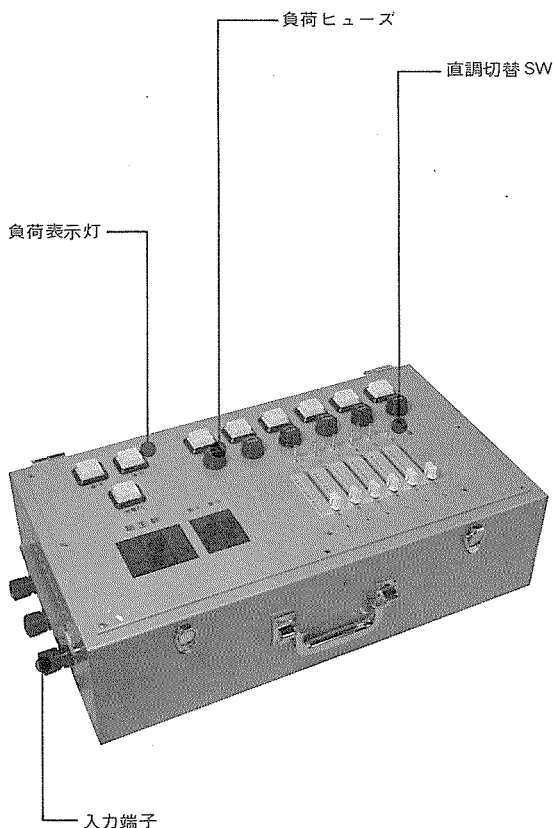
舞台上の重要ポイントを強調するためのライティングコントラスト。

抒情的な表現、とくに余韻を残す表現を用いる場合のフェードアウト。

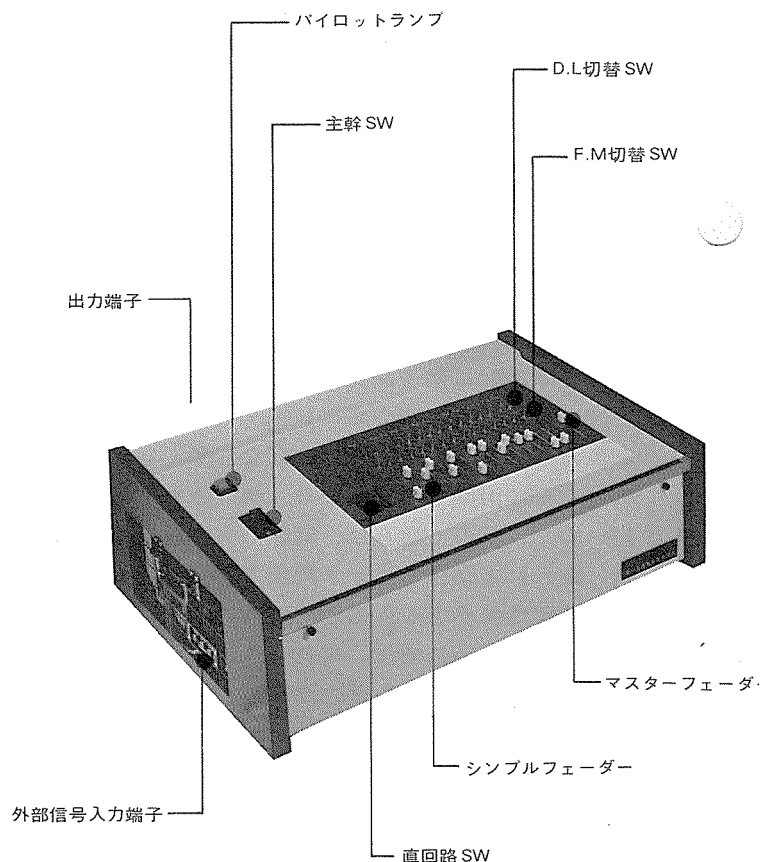
あらかじめ観客に状況を感じさせておく、シルエットからのフェードイン…etc……。

演出上要求されるライティングテクニックや、少い照明器具による効果的な照明演出のために、ディムパックは、なくてはならない調光器です。

T-6



T-15



★使ってみませんか★

仕 様

●T-6

主 幹 容 量	100 A
受 電 方 式	単相 3 線又は単相 2 線
出力コンセント	調光回路 12回路 直 回 路 4 回路
調 光 器	トライアック 2 KW×6 台
調 光 操 作	シングルフェーダー 6 本
重 量	17kg
大 き さ	550×300×190mm

●T-15

受 電 方 式	単相 3 線 100 V/200 V 単相 2 線 100 V 3 相 4 線 100 V
主 幹 容 量	150 A
出 力 端 子	20 A 端子台 調光回路 15 直 回 路 2 (特別仕様 T型20Aコンセント調光回路30 直回路4)
調 光 器	MT型ディマー 15
調 光 操 作	マスターフェーダー 1 シングルフェーダー 15 D・L切替 SW 15 F・M切替 SW 15
負 荷 フ ェ ー ズ	限流フェーズ FCK-2-20(20A) 15 外部信号接続回路 15 外部信号入力回路 3
大 き さ	850×570×280mm
重 さ	50kg

ご 注 意

調光器は1台2kWです。調光容量はオーバーしないようにしてください。

電球はノイズレスのものを使用して下さい。

コピーサウンドシステム UP-401プレーヤー+ディスク

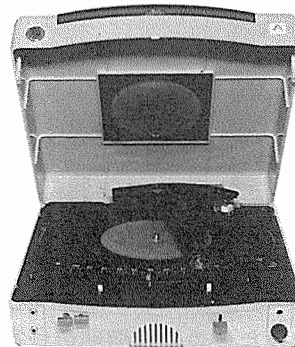
あなたの欲しい音が、簡単に得られます。

新しく開発された、UP-401プレーヤー+ディスクは、自然、人工の音800種をループ音溝方式のディスクに収録して、いろいろなケースの効果音の採録にとっても便利です。とくに新しく加わった、山本直氏の選曲、作曲による“ゲキバン”のディスクを併せて使用すれば、あらゆるケースの演劇の効果音の採録ができるでしょう。

〔くわしくは、マルモデンキ営業部、井上までお問合せください。カタログを送ります〕

*

1. 目盛りセット。ピタリその音が！
独特のセクター機構で、頭出しのもどかしさを一挙に解結。
2. 必要な時間だけ再生可能。
ループ音溝方式のため、同じ音が何度でもリピートされます。
3. 従来の5倍の音を収録。
1分間4回転という超低速回転のディスクで、従来の約5倍の連続演奏が可能。



すいせんのことば

全国高等学校演劇協議会会長 内木文英

ユーピーを見せていただき、正直いったいへん驚いた。まったくものすごいものが発明されたものである。

学校で劇を創るとき、一番弱い部門が照明と効果音である。照明は工夫をこらしすぎて失敗することが多いし、音はどのような音をどのくらいの音量で出したらいいのかわからない。劇の批評を求められ、その不自然な音を指摘するのだが、だからこうしたらいいとは指示できなかった。教えたくとも私自身いいものを知らなかったからだ。この機械で、効果音の問題は、ほぼ解決した。

★編集後記

マルモ・ライティング・ニュースは、年間に4回発行しています。御意見のある方は、マルモまで、お手紙ください。

又、おともだちでライティングニュースを役立て、くださる方を紹介してください。無料でお送りします。

＊

次号予告

- ①たのしい舞台照明（演出と照明その3）
 - ②学校のための舞台照明設備Ⅲ
 - ③ロックンロールの照明 その他です。
- 御期待ください。

舞台照明関係の書籍紹介

●やさしい舞台照明入門

牛丸光生著 2,000円 / 彩光社版

＊

●舞台照明

大庭三郎著 2,600円 / オーム社版

＊

●初歩の舞台照明の手びき

植柘卓輝編さん 1,000円

＊

●オペレーターのための舞台照明の技術

植柘卓輝編さん 1,300円

＊

上記の書籍ご希望の方は“マルモ”で取扱っていますから、お申込みください。

●マルモ製品についての御問合せは

東京営業所	東京都千代田区神田須田町1-24 TEL(03)(252)0321(代) ㊦101
名古屋営業所	名古屋市中区栄4丁目1-1中日ビル TEL(052)(261)1111(225)㊦460
大阪営業所	大阪市北区神山町3-2 TEL(06)(312)1913 ㊦530
山梨営業所	山梨県中巨摩郡竜王町西八幡 TEL(05527)(6)2421 ㊦400-01

●ご注文のときはマルモ製品とご指定ください。

(株)東京舞台照明	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-51-4 TEL(03)(404)2611 ㊦151 大阪市北区大工町12(駒村ビル) TEL(06)(353)1806 ㊦530
ほりそんとあーと	札幌市中央区南4条西8丁目 TEL(011)(221)3101 ㊦060
北電力設備工事(株)	札幌市中央区南2条西12丁目 TEL(011)(241)3911 ㊦060
盛岡舞台総合研究所	盛岡市南青山町11-14 TEL(0196)(47)0736 ㊦020
(株)共立	東京都渋谷区代々木5-40-13 TEL(03)(469)1501 ㊦151
(株)東海舞台	静岡市曲金6-6-50 TEL(0542)(82)2275 ㊦420
キーブ舞台照明	甲府市朝日4丁目5-18 TEL(0552)(52)5151 ㊦400
若尾総合舞台研究所	名古屋市千種区大島町3-45 TEL(052)(763)0719 ㊦460
(株)三光	名古屋市東区東桜2丁目6番14号 TEL(052)(931)3238 ㊦461
(有)総合舞台はぐるま	岐阜市西野町1 TEL(0582)(63)5693 ㊦500
(株)金沢舞台	金沢市東力町2丁目92番1号 TEL(0762)(91)1418 ㊦921
(株)新日本電機製作所	大阪市北区曾根崎上1丁目21 TEL(06)(312)2604 ㊦530
(株)篠本照明	広島市霞町4-296-15 TEL(0822)(53)7246 ㊦734
四国照明サービスセンター	徳島市中常三島町3丁目4-2 TEL(0886)(54)2414 ㊦770
四国舞台テレビ	高知市大川筋2丁目3-13 TEL(0888)(23)7729 ㊦870
福岡市民会館サービスセンター	福岡市中央区天神5-1-23 TEL(092)(751)6474 ㊦810
ユニーク・アート・ステージ	大分市金池南1丁目3-26 TEL(0975)(44)1083 ㊦870

発行 丸茂電機株式会社
東京都千代田区神田須田町1-24
㊦101 TEL(03)(252)0321(代)
製作 キャピタル企画
(不許・複製)

取扱店